

第8期北海道総合開発計画の推進 北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

HOKKAIDO
ROADS2021

第8期北海道総合開発計画（平成28年3月29日閣議決定）に基づき、「世界の北海道」のキャッチフレーズを掲げて、北海道の強みである「食」と「観光」を担う地方部の「生産空間」を支えるための重層的な機能分担と交通ネットワークの強化、農林水産業の競争力・付加価値の向上、世界水準の観光地の形成等に重点的に取り組みます。

また、令和2年度に行われた「第8期北海道総合開発計画中間点検」を踏まえつつ、計画が目指す姿や行動の指針となる数値目標を念頭に置き、それを実現するための課題を明らかにしたうえで、引き続き施策を推進していきます。

北海道型地域構造のイメージ：三層から成る「基礎圏域」



■生産空間
主として農業、漁業に係る生産を支え、観光資源を提供する空間

■地方部の市街地
一定程度の生活サービス機能を提供する地域

■圏域中心都市
医療、教育・文化、商業等の都市機能・生活機能を提供

「第8期北海道総合開発計画中間点検」の点検結果等については、「北海道開発分科会」にて審議・公表を行っております。下記の二次元コードより、審議結果をご確認いただけます。

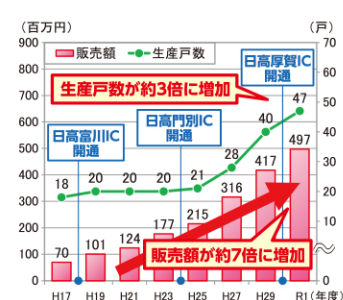
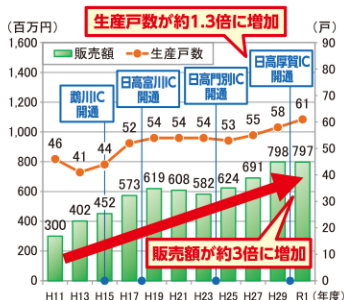
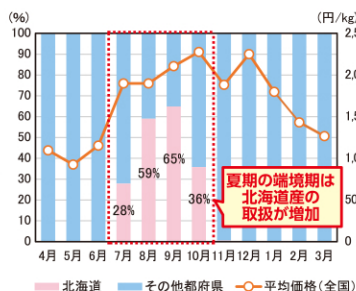
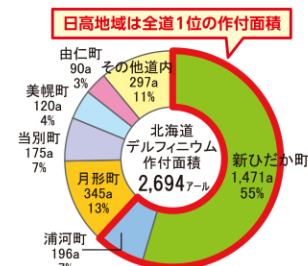


「国土交通省 北海道開発分科会」
HPへリンク
https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/s102_hokkaido01.html

分散型の国土づくりを先導する高規格幹線道路等ネットワークの整備

北海道内外の人流や物流の拡大、地域・拠点間の連携機能を強化するため、高規格幹線道路等のネットワークの構築を推進します。日高地域では、全道一の作付面積を誇る新ひだか町のデルフィニウム（花卉）や夏期に東京市場で多く取り扱われる浦河町・様似町産の夏いちごといった農産物の生産が拡大しており、空港等の出荷拠点への輸送は日高自動車道を経由しています。

日高自動車道の延伸とともに日高地域の農産物販売額及び農業への新規就農者は増加傾向にあり、高規格幹線道路等ネットワーク整備は北海道型地域構造の保持・形成や道内の定住・交流を支援しています。



▲日高地域の農産物における高規格幹線道路ネットワークを活用した出荷状況
※上図「〇割」は方面別の出荷割合を示す

地域の声（農協職員）



- いちごの生産がスタートした平成16年以降、販売額・量、農家戸数ともに順調に増加しています。これは、日高道の整備による輸送時間の短縮や定時性の向上といったアクセス利便が大きく向上したことにより、新規就農者が参入しやすくなったことが要因です。
- 日高道は地域経済の活性化や雇用の増進にも寄与することから、浦河までの早期延伸を期待しています。

「道の駅」の日常生活や地域経営の拠点化

地方部の「生産空間」を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、日常的な生活サービス機能を「道の駅」などに集約するなど地域の拠点づくりを支援していきます。

「道の駅」の交通結節点化や防災拠点化など、地域の拠点化に向けた多様な取組を推進していきます。

「道の駅」の拠点化の取組事例

公共交通の乗継拠点
(路線バス、コミュニティバス等)



防災機能の強化
(防災資材等の整備)



子育て支援施設
(おむつ等自動販売機)



下記の二次元コードより、全道各地の「道の駅」に関する最新情報などをお知らせしています。



「北海道の道の駅総合サイト」
北の道の駅HPへリンク
<http://www.hokkaido-michinoeki.jp/>